

令和2年度 小林市立紙屋中学校 学校関係者評価書

4段階評価

4 期待以上

3 ほぼ期待通り

2 やや期待を下回る

1 改善を要する

学校の経営ビジョン	生きていることに感謝し、夢に挑戦する強い心もち、夢の実現のためによりよきものを求める生徒を育成する。そのために、 ①「校時程の工夫による確かな学力の育成、ICTを活用した分かる授業の充実」 ②「命の大切さを知り、思いやりの心や感謝の心を育成する教育」 ③「体育的行事や放課後の運動などを通じた体力づくり、安全教育と食育指導の充実」 に全職員で取り組み、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを目指す。
-----------	--

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析および改善策等	自己評価	関係者評価	学校関係者評価のコメント
知育	1 ミニ授業やテスト対策への時間の工夫。	朝習の時間を活用したミニ授業を、年間を通して計画的に実施することができた。テスト対策については、各教科で計画、実践し、授業以外に昼休みや放課後等の時間も活用して、個別のテスト対策の指導を行うことができた。	3.2	3.4	○ 授業時間外を使っての指導を継続することで、家庭での学習にも繋がっていくといいと思います。 ○ 朝、授業が始まる前、昼休み、そして放課後等、多くの時間をかけて熱心に指導していただいて、ありがたいことだと思います。紙屋中のような少人数の学校ならではのきめ細やかな生徒に対する取組に感謝します。 ○ 子供が高校に進学して、紙屋中の子供たちは学力が高いと思いました。先生方の取組のお陰だと思います。 ○ 先生方が親身になって生徒一人一人に向き合ってくれていることが子供たちにも伝わり、学習でも成果が上がり、自信にもつながってとても良いことだと思います。 ○ ミニテスト等は、これからも継続して実施してほしいです。
	2 基礎・基本の定着と分かる授業の構築。	本年度、2回行われた校内テストの平均点が70点以上の生徒の割合は69.4%であった。わずかではあるが、目標を達成することができなかったことを真摯に受け止め、今後も各種テストの分析を充実させ、どのように授業に生かしていくべきかを共通理解していく必要がある。			
	3 ICT機器の効果的活用。	デジタル教科書については、全教科で有効活用を図ることができた。タブレットPCの有効活用のための研修を深めていきたい。			
	4 個に応じた指導と家庭学習の充実。	個に応じた授業や指導については、昼休みや放課後などの授業以外の時間を使って、継続して実施することができている。また、授業で使うワークシートの工夫を図っている教科もある。家庭学習の取組は、生徒、保護者の自己評価の平均が2.9と低く、家庭との連携が必要である。			
徳育	1 道徳の時間等を活用した心の教育の充実。	本中学校区ならではの「考え、議論する道徳」の授業づくりを、小学校と協力ながらしっかりと確立していく必要がある。各種コンクールや新聞への投稿等を積極的に継続することができ、生徒全員を何らかのかたちで称賛する機会をもつことができた。	3.4	3.5	○ 清掃で学ぶことは多いと思います。地域に貢献する清掃を続けてください。 ○ あいさつに関しては、これからも継続してご指導をよろしくお願いします。 ○ あいさつは、遠くからでもしっかりとしてくれる子もいる反面、友達としゃべりながらあいさつする子もいたりします。 ○ 大人にも子供があいさつしても返さない人がいるので、今後はどちらもあいさつを気を付けていくとよいのではないのでしょうか。 ○ ボランティアは、これからも「ふるさと愛」の心で継続してください。 ○ 道徳の時間は、特に「いじめ」の問題について力を入れて取り組んでほしいです。 ○ 新型コロナウイルスの影響で、西諸音楽大会などに保護者が参加できなかった。また、地域の方々との交流も少なくなった。
	2 言語環境の整備と基本的な生活習慣の推進。	「思いやりのある言葉遣いができ、あいさつは自分から率先してできたか」の問いに対する生徒の自己評価が3.0で、保護者の評価が2.9とある程度の達成が得られた。しかし、キャリア教育と関連付けながら、あいさつの意義について考えさせ、学校のみならず、家庭や地域でも率先してあいさつができるように実践力を育てていく必要がある。			
	3 地域と連携を図ったボランティア活動の充実。	毎日の清掃や高妻神社清掃では、積極的な取組が見られた。特に高妻神社の清掃を、「ふるさと愛」の心の育成につなげていきたい。			
体育	1 新体力テスト結果の把握と肥満度ゼロ。	新体力テストにおけるD段階の割合が4%で、E段階の割合が0%で目標を達成している。また、体力向上に対する生徒・保護者の自己評価は、3.3、3.6と高い評価であった。しかし、全校生徒に対する肥満の割合は12%であり、今後も自己の健康維持に対する関心を高めさせる指導や個別のアプローチを継続させていくことが必要である。	3.1	3.2	○ むし歯の治療率100%はすばらしいです。なかなかできないことだと思います。 ○ 給食残食も紙屋小中学校はとても優秀で、完食100%と聞き、とても誇りに思います。 ○ 県駅伝大会等の活躍を、とてもうれしく思いました。 ○ 今年度は、新型コロナウイルスの影響で思うように体を動かすことが少ない中、小中合同運動会や校内駅伝大会ができてよかったと思います。
	2 むし歯の治療率100%、給食残食ゼロ、朝食欠食ゼロ。	むし歯の治療率100%、給食残食ゼロを達成することができた。しかし、朝食欠食者の割合は全体の4%であり、家庭と連携を図りながら継続して指導していきたい。			
	3 立腰による精神バランス感覚の向上。	本年度は、全校生徒に対する十分な立腰の指導の機会を設定することができなかった。指導の充実を図っていく必要がある。			
食育	1 日々の安全指導の充実と命を大切に教育の推進。	校内安全点検を毎月実施し、修繕できる箇所はその都度直し、修繕箇所によっては市教委に働きかけている。いのちを大切に教育については、年度当初の計画通り、7月と12月に「いのち」や「いじめ」をテーマとした道徳の授業を実施した。また、「紙屋中学校いじめ追放宣言」を校内に掲示し、朝の会で唱和する等の取組を継続している。	3.4	3.5	○ コロナ禍に言動・態度で他人を傷つけないよう気を付けたいですね。「いじめ」に繋がらないように「いのち」の授業が大切だと思います。 ○ 稲作の体験を通して、食べ物大切に育つ気持ちをもった人に育ってくれると思います。
	2 年3回の弁当の日の充実と食育の推進。	今年度は、新型コロナの影響で1度しか実施できていないが、事前の学習も含めて、全校生徒がしっかりと取り組んでいる。			
	3 田植え・稲刈り体験を通し、『食』への感謝の気持ちの育成。	米作りや餅つき会では、地域コーディネーターを中心に多くの保護者に支援していただいた。今後も収穫の喜びと同時に、食への感謝の気持ちを育てる取組を継続させていきたい。			
その他	1 家庭・地域との連携・協働。	毎週発行の学級通信や毎月発行の「学校だより」と「ほけんだより」等、年間を通して、家庭や地域への周知、理解を深めるための発信を継続して行うことができた。学校のホームページも随時更新することができ、作文や詩、俳句、短歌等の生徒作品が、4月からこれまでの新聞に38回掲載された。保護者との連携については、「保護者として、参観日や学校行事などに積極的に参加しましたか」の問いに対する保護者の自己評価の結果は3.4と高く、学校行事等への保護者や地域の方々の協力がとても積極的であった。地域人材の活用については、「地域と連携した行事(田植え・収穫、神社清掃など)に積極的に取り組んだか」の問いに対する生徒たちの自己評価が3.8と非常に高く、教育的効果も期待できると考えるので、今後も積極的活用を推進していきたい。	3.4	3.3	○ 新聞の掲載作品を喜んで見ている。褒められたり、認められたりすることで、自己達成感が得られると思います。ただ、新聞を取っていない家庭が多くなってきているのも事実のようです。 ○ 作文や詩、俳句、短歌等の生徒作品が新聞によく掲載されるので、うれしく思うし、それに熱心に取り組まれている先生方に大変感謝しています。 ○ 紙屋中は、保護者の方々も非常に熱心に行事等に参加してくれるので、とても助かっています。 ○ 学級通信や「学校だより」、「ほけんだより」などで、学級や学校の様子がよく分かり、見るのが楽しみでもあります。 ○ 先生方や保護者との連携については、学校での子供の様子等を細かく伝えてくれるので助かっています。 ○ 働き方改革は、今後も続けてもらいたいです。
	2 働き方改革の推進。	働き方改革については、家庭や地域への理解を一層深めるとともに、効率的な職務の遂行や会議・行事等の精選を図っていきたい。			

次年度の方向性についての校長所見	【知育】 校外テストや各種検定試験等の結果を見る限りでは、学力の向上している生徒の割合が多いようである。しかし、その反面、個別の指導を必要としている生徒も在籍しているので、生徒一人一人の実態に即した指導の機会を増やしていけるように努めていきたい。また、GIGAスクール構想の実現に向けて、本校でも校内の情報化推進チームを設置し、タブレットPCやICT機器活用の更なる推進を目指していきたい。 【徳育】 次年度の小林市小中一貫教育推進モデル校委託事業(徳育)の研究公開に向けて、小学校や家庭・地域との連携を更に深めながら徳育分野の教育の充実を図ってきたい。特に、「考え、議論する道徳」の授業づくり、実践につながる取組、評価の方法、家庭との連携についての研究を深めていきたい。 【体育】 体力向上に向けての取組や、健やかな体の育成への取組(治療受診の必要な人の病院受診・危険な行動や、危ない場所での遊び)については、指導を充実させることができた。また、全ての生徒が、給食は好き嫌いせずに残さず食べ、残菜0を年間を通して達成することができた。しかし、自力登校や自己の健康維持への関心、立腰の実践については課題も残った。次年度は、この反省を踏まえて、年間を通して指導の充実を図っていききたい。 【食育】 いのちを大切に教育や弁当の日を通じた食育への関心を高める指導について、計画通り推進することができた。また、米作りや餅つき会の取組、給食感謝週間を通して、食への感謝の心を育むことができた。日々の安全指導については、安全点検を充実させることによって、生徒・教職員共に常在危機の意識の高揚を図っていきけるように努めていきたい。 【その他】 信頼される学校づくりを目指して、家庭や地域との連携・協働を推進していくための教育活動の活性化を図ってきたい。そのために、次年度も、学級通信や「学校だより」、生徒作品の新聞投稿等を通して、家庭や地域に学校の取組を知ってもらうための情報発信に努めたい。地域行事への積極的参加や地域の紙屋一徳まちづくり協議会と連携した地域防災訓練等については、本年度、新型コロナの影響で実施することのできなかったが、次年度以降も継続させていきたい。
------------------	--